

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／日本史探究】

1. 対象 3年

2. 単元名「近代国家の展開」（全16時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	明治維新、殖産興業、文明開化、立憲体制の樹立といった、近代国家の形成の過程において、政治・文化・産業において、欧米列強の技術や制度を導入していることを理解している。
思考力，判断力，表現力等	明治維新、殖産興業、文明開化、立憲体制の樹立といった、近代国家の形成の過程において、事象の意味・意義・推移・関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。
学びに向かう力，人間性等	明治維新、殖産興業、文明開化、立憲体制の樹立といった、近代国家の形成の過程において、立憲政体の樹立、産業の発達、国際関係の変化が条約改正につながったと結論づけられるように、協働しながら主体的に課題を追求しようとしている。

4. 言語活動

資料から事実を解釈して説明するとともに、自分の考えをもち、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

5. 本時の目標

不平等条約改正の理由を3観点から説明できるようになる。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

約半世紀の間で、列強と対等な地位を得るために日本が達成したことは。

考えるための材料A（共通）	考えるための材料B	考えるための材料C
近代日本の国際的な地位と役割 ①「社交界に出入りする紳士淑女」（ビゴーの風刺画） ②「イギリスの日本接近」 ③北清事変	立憲体制の重要性 ①欧米における立憲政治の確立 ②立憲体制の視察した日本人の記録 ③日本における立憲体制の整備	日本の工業化 ①世界の工業生産高の国別割合 ②貿易の変遷からみる日本の近代 ③詳説日本史探究（教科用図書の表記）
想定される活動		
生徒は、日本が欧米諸国と対等の地位にないこと、国際関係の変化に伴い、日本の国際的な地位が変化していることを理解する。	生徒は、欧米諸国では立憲政治が当たり前であること、日本では立憲政治が行われていないことを理解する。	生徒は、日本の工業製品の輸出の増加と生産高が倍増していること、欧米諸国と遜色ない技術力を日本が獲得したことを理解する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

講義→知識構成型ジグソー法（対話と思考）→まとめ

第1次【講義】「条約改正」

第2次【知識構成型ジグソー法】→まとめ

【説明（7分）】本時の目標、解決したい問、ジグソー法の説明・進め方

【エキスパート活動（5分）】

＜課題A（国際的な地位）＞

Q1：外国人から見た日本人について

Q2：イギリスの日本接近と国際的事変における日本の役割について

＜課題B（立憲体制の確立）＞

Q1：近代における列強の政治体制の共通点について

Q 2 : 日本における憲法および諸法典の整備の完成について

< 課題C >

Q 1 : 日本の工業化の成長度合いについて

Q 2 : 日本の工業技術の向上について

【 クロストークとまとめの記入 (15 分) 】

※グループは3名または4名

※トークの際、相手の意見を尊重すること

①グループのメンバーのみでトーク (6 分)

②教員からヒントの提示 (3 分)

③ヒントを受けて再度トーク (6 分)

【 ロイロノートに提出 (グループの代表) (4 分) グループの案を全体で共有 (発表あり) (3 分) 】

【 考察 (3 分) 】

既習事項から、条約改正に向けた動きが始まった時期、特に工業化・立憲体制の始まりを見つけるように支持する。

【 考察を踏まえ、教科書で時期を確認する。各自の意見をロイロノートで提出 (全員) (3 分) 】

【 エキスパート活動 】

< A >

Q 1 : 人間だが、鏡に映る姿は猿である。猿まねしていて生意気である。

日本人はまだ猿 (動物) のように未熟である。欧米の真似をしているだけである。

Q 2 : 英・米・露・仏などのヨーロッパ諸国の兵士と日本の兵士が並んでいる。

北清事変の際、ロシアと共に連合軍の主力だった。

欧米の国と並んで写っていることから、仲間という認識がある。

不平等条約を結んでいる国と並んでいて、主力だったから、日本は強くなった。

< B >

Q 1 : 憲法がある。憲法の規定に基づいて政治が行われる立憲主義が確立していた。立憲政治。

Q 2 : 1888 年。1890 年。

< C >

Q 1 : ①の資料だと 0.6→1 になっているから、2 倍。②だと約 3 倍だ。

どの程度と言われても分からない。

アメリカは増えているけど、イギリス・フランスなどは減っているから、日本は少なくとも成長していることが分かる。

Q 2 : 「造船技術が世界水準に追いつき」「先進国並みの精度をもった旋盤の国産化に成功した」

まとめ「列強と対等な地位を得るために達成したこと？」

A について

Q 1

「猿だね」、「生意気」、「何が生意気なんだろう?」、「分からん。」、「人間にまで進化していないってことじゃない?」

Q 2

「イギリスは日本に接近している。」、「北清事変では日本が主力だって。」、「主力ってことは中心だよ。」、「たまたまじゃないのかな。」、「列強諸国と一緒に写っているし、まあまあ頑張ったんだよ。」

B について

Q 1

「本当にわからない。何これ。」、「共通している言葉を探してみたら?」、「憲法、立憲、均衡が複数出てくる。」、「じゃあ、憲法で。」

Q 2

「1888 年と 1890 年しかない。」、「この質問、簡単すぎ。」

まとめ

「条約改正は 1894 年と 1911 年だよ。」、「年表を見ると、日本の憲法と法の整備がされてから、領事裁判権が撤廃されてる。」、「でも、少し年数がはなれている。」、「じゃあ、関係ないかな。」、「①と②の資料だと憲法が共通しているから、憲法は関係していると思うんだけど、どう?」、「この資料からだ、憲法ができてから領事裁判権が撤廃されているから、そうかも。」

Cについて

Q 1

「①だと日本は外国に比べると、割合が少なすぎる。」、「日本、やばい。」、「②だと興行関係の輸出品の額が約3倍だよ。」、「世界的にみると少ないけど、日本は少なくとも成長はしているよね。」、「それしかわからないよ。」

Q 2

「これは書いてあるところだけだね。」、「造船技術が世界水準に追いつき」、「先進国並みの精度をもった旋盤の国産化に成功した」、「ここしかないでしょう。」

※設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）を簡潔に記入してください。

※対話や思考のプロセスを想定し、児童生徒の言葉で具体的に記入してください。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

※設定した「解決したい課題や問い」に対する児童生徒のあらわれを想定し、児童生徒の言葉で具体的に記入してください。

まとめ

A「Aの資料だと、日本は猿だったけど、連合国の主力となった。ってなっている。」、「人間になったってことでいいかな?」、「猿が人間に進化したなら大幅な進歩だと思う。」、「イギリスがロシアを警戒して日本に近づいているとなっているし、日本はまともな国になった?」、「少なくとも猿からは進化したんだと思う」、「日英通商航海条約で領事裁判権は撤廃されているから、日本はイギリスから認められたのかな?」、「たぶん」⇒「外国から認められたこと」

B「憲法に基づいた政治は欧米の基準だから、憲法は必要かな。」、「日本はこれまで憲法がなかったから、欧米からどんな風にみられていたんだろう?」、「やばい国?」、「Aの①の資料のように見られていたのかも。」、「Aの資料が描かれたのは憲法の制定前だからね。」、「なるほど。」⇒「憲法大事」

C「とりあえず、日本の工業化が進んだことだけは分かった。」、「そうだね。」、「技術が先進国並みってこともだね。」、「先進国並みってすごくない?」、「たしかに。」、「まとめると、工業化が進んで、世界の基準に追いついたからかな?」、「たぶんそうだね。」⇒「工業化して、生産高は全然だけど、技術は追いついた。」